

五分前の世界

梗概

この物語は主人公るり（16）が並行世界の存在によって無数の分岐を辿っていく様を一つの映像に収めたものである。

るりの部屋に隕石が落ちる5分前。

ダイエット中のるりはなめらかプリンの誘惑に駆られていた。

どうにかプリンを我慢したるりだったが、並行世界にはプリンを我慢できなかったるりが存在しており、別々の世界の二人のるりがつつの映像に映し出される。

その後もるりが食べ物への誘惑に駆られる度に世界は分岐を繰り返し、家中るりだらけになる。

やがて隕石がるりの部屋に直撃する。

無数のるりの中で、ただ一人最後まで誘惑に
負けなかつたりだけが無情にも命を落とす
のだった。

《登場人物》

るり (16) 高校生

Youtuber

るりの母

ラーメン屋の出前

○大気圏

隕石が輝きを放ちながら降ってくる。

○町の風景

のどかな田園が広がっている。

上空から隕石が落ちてくる。

隕石、木造作りの民家の屋根に衝突する。

耳をつんざく激しい衝突音。

○るりの家・外

瓦屋根にサッカーボール大の穴が空いている。

サイレンの音がけたたましく響く。

民家の周りにはパトカーと野次馬。

るりの声「人生は無情だ」

○同・るりの部屋

天井に穴があいている。

床には隕石に直撃して木っ端みじんになったキティちゃんのクッションが転がっている。

る。

○同・外

警察官ら、遺体袋を担架で運ぶ。

るりの声「たった一つを選択が生死を分ける」
映像、ストップする。

以下、映像が冒頭のシーンまで巻き戻っ
ていく。

○逆再生される映像

遺体袋を担架で運ぶ警察官ら、後ろ歩き
で民家へ入っていく。

パトカーや野次馬が散っていく。

大きな穴の開いたるりの家の屋根。

屋根が吹き飛ぶ。

屋根の上から隕石が浮かび上がる。

隕石、光りながら空へ昇っていく。

大気圏へと昇っていく。

○大気圏

隕石がぐんぐん昇っていく。

映像、ストップする。

○タイトル

○るりの家・るりの部屋

るり(16)、キティちゃんのクッションを抱きながらスマホでYouTubeを見ている。

るり、黄色いシャツを着ている。

○YouTubeの画面

YouTubeがしゃべっている。

YouTube「パラレルワールドというものをご存知でしょうか。簡単にいうと、あり得たかも知れない世界のことです。仮にあなたに好きな人がいるとしましょう。ある日告白するチャンスが訪れたがあなたは勇気を出せず告白できなかった。このある日を境目に別の世界では好きな人に告白したあなたが存在し、さらにはフラれたあなた、フラれなかったあ

なたがいる。つまり、無数にある別の世界では好きな人と付き合っているあなたが存在しているのかもしれないのです」

○るりの家・階段

るり、降りてくる。

○同・洗面所

るり、体重計に乗る。

るり、数値を見て、

るり「（ため息）」

○同・リビング

るり、冷蔵庫を開ける。

冷蔵庫の中にデパ地下のなめらかプリン。

るり、はっとする。

るり「なめらかプリン…」

るり、プリンを手にする。

プリンラベルを見る。

るり「（切ない）234カロリーもある」

るり、泣く泣くプリンを戻して冷蔵庫の扉を閉める。

るり、冷蔵庫の前をうろうろする。

るり、また冷蔵庫を開ける。

るり、手をのばしてプリンを取ろうとするが、ギリギリのところで踏みとどまる。

るり、代わりにペットボトルの水をつかむ。

が、るり、やっぱりプリンに手をのばす。

るり「(悩ましい)」

るり、決意を固めて冷蔵庫の中へ手をのばす。

その瞬間、るりの手が二つに分裂し、一方はペットボトルの水を手にし、もう一方はプリンに手にする。

(以下、水を手にしたをるり、プリンを手にしたるりと表記)

るり、るり、冷蔵庫のドアをしめる。

るり、水を持って廊下へと出ていく。

るり、プリンを持ってキッチンに向か

う。

るり^ニ、引き出しからスプーンを取り出す。

○同・るりの部屋

るり^ニ、ベッドに座ってプリンを食べている。

るり^一、水をガブガブ飲んでいる。

るり^一、勢い余って水を^一シャツにこぼしてしまう。

るり^一「やってもうた」

るり^一、タンスを開ける。

るり^一、タンスの中から青の^一シャツを取る。

○同・リビング

るり^ニ、空になったプリンの容器をゴミ箱へ捨てる。

るり^ニ、廊下へ出ようとし、足をとめる。

るり^ニ、振り返って冷蔵庫を見つめる。

○同・階段

るり²、上っている。

るり²「(ため息) プリンを食べなかった私：
どうしてるかなあ：」

○同・るりの部屋

るり²、入ってくる。

るり¹、着替えを終えて青¹シャツに変
わっている。

るり¹「(呟く) プリンを食べた私、どうして
るかなあ：」

るり¹、キティちゃんのクッションに座
る。

るり²もキティちゃんのクッションに座
る。

青¹のるり¹と黄色¹のるり²の体が
ぴったりと重なって¹シャツが緑色になる。
るり¹、るり²「よし。やるか」

るり¹は北に、るり²は南に足を向けて

寝そべり、頭の下にクッションを敷く。

るりー、るりん、腹筋を始める。

るりーが上半身を起こすとるりんが上半身を寝かし、るりんが上半身を起こすとるりーが上半身を寝かす。

さながらシーソーのような光景が続く。

と、ベランダから鳩の鳴き声がする。

るりー、るりん、立ち上がる。

二人、体が重なって緑のTシャツになる。

るりー、るりん「鳩…」

るりー、るりん、徐に勉強机の前に向かう。

るりー、るりん、机の引き出しを開ける。

鳩サブレーの缶が大事そうにしまっている。

るりー、るりん、缶のフタを開ける。

中には鳩サブレーのお菓子。

るりー、るりん「(切ない)鳩サブレー…」

るりー、るりん、ツバを飲む。

×

×

×

室内に四人のるり。

黄色□のるり、ベッドの上で鳩サブレールを食べている。

その隣で青□のるりが鳩サブレールを食べている。

(以下黄色□のるりをるりω、青□のるりをるりμと表記)

るりμ、水をガブガブ飲んでいる。

隣でるりω、水をガブガブ飲んでいる。

るりμ、るりω、水を□シャツにこぼしてしまう。

るりμ、るりω、タンスを開ける。

るりμ、白□を手に取る。

るりω、黒□を手に取る。

○上空

迫りくる隕石。

○るりの家・るりの部屋

るり¹、るり²、るり³、るり⁴、クツシ
ョンを頭の下に敷き、それぞれ東西南北に足
を向けて腹筋をしている。

全員、微妙に上半身を起こすタイミング
が違う。

るり⁵、疲れ切って倒れ込む。

るり⁶、立ち上がると部屋を出ていく。

○同・リビング

黄色⁷を着た無数のるりが室内に蠢いて
いる。

例えば、るり⁸、冷蔵庫の前で食料を貪
り食っている。

るり⁹、テーブルでペヤングペタマック
スを食べている。

るり¹⁰、キッチンでレトルトカレーを温
めている。

るり¹¹、スマホで電話している。

るり¹²「ラーメン大盛り、餃子とチャーハン、

麻婆豆腐、レバニラ炒めも」

○同・るりの部屋

るり¹、るり²、るり³、腹筋をしている。

るり⁴、疲れて立ち上がる。

るり⁵、部屋を出ていく。

るり¹、るり²、しんどそうに腹筋を続ける。
る。

キティちゃんのクッションの上、るり¹
の頭とるり²の頭がいたりきたり。

やがてるり¹もるり²も上半身を起こせ
なくなる。

るり¹、るり²、上半身を起こそうと力
む。

が、頭がクッションから持ち上がらない。
るり¹、るり²、なお力む。

が、やはりダメ。

るり¹、るり²、さらに力む。

るり¹、最後の力を振り絞ってどうにか
上半身を起こす。

少し遅れてるり、どうにか上半身を起
こす。

るり、クッションに倒れ込む。

るり、クッションの上でやり遂げた顔
をしている。

その瞬間、隕石が降ってくる。

激しい衝撃音が室内に響く。

辺り一面に砂埃が舞う。

天井に穴。

木っ端みじんになったクッションの破片。
るりにモザイクがかかっている。

間一髪で助かったるり、呆然としてい
る。

○同・リビング。

天井に砂埃が舞っている。

るり、金太郎飴をかじりながら天井を
見上げる。

○同・外

瓦屋根にサッカーボール大の穴。
けたたましいサイレンの音が響く。
家の周りにパトカーと野次馬。

○同・外（るり♡の世界）

るり♡、泣きながらるりの母に抱きついでいる。

○同・外（るり∞の世界）

るり∞、泣きながらるりの母に抱きついでいる。

ラーメン屋の出前、やってくる。

出前「ラーメンお待ち！」

○同・外（るりへの世界）

るり∞、泣きながらるりの母に抱きついでいる。

るり∞、口元に青のりがついている。

るりの母「あんた、少し太った？」

○同・外（るりーの世界）

警察官ら、遺体袋を担架で運んでいる。

るりーの声「人生は無情だ」

るりー、遺体袋から顔を出す。

るりー、遺体袋から抜け出す。

るりー、担架から降りる。

るりー、撮影カメラに向かって話す。

るりー「もしプリンを食べていたら？ 鳩サ

ブレーを食べていたら？ 筋トレをサボって

いたら？」

警察官ら、るりーの体を取り押さえる。

警察官ら、るりーを遺体袋に入れようと

する。

るりー「無数に存在する私の中でただ1人、

なめらかプリンを我慢し、鳩サブレーをも我

慢したために…」

るりー、遺体袋に押し込められ、再び担

架に乗せられる。

るりー、往生際悪く遺体袋から顔を出す。

るりー「こんなことなら冷蔵庫のプリンを…」

警察官、すぐさまるりーを遺体袋に押し込む。

るりーの声「もごもご」食べればよかった」

(おわり)